(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3839614号
(P3839614)
(45)発行日　平成18年11月1日(2006.11.1)　(24)登録日　平成18年8月11日(2006.8.11)

(51)Int.Cl.　F I
A45D 33/00 (2006.01)　A45D 33/00 645Z

請求項の数 2 (全 6 頁)

(21)出願番号　特願平11-91082
(22)出願日　平成11年3月31日(1999.3.31)
(65)公開番号　特開2000-279225(P2000-279225A)
(43)公開日　平成12年10月10日(2000.10.10)
審査請求日　平成15年6月30日(2003.6.30)

(73)特許権者　000006909
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島３丁目２番６号
(74)代理人　100068157
弁理士　今岡　良夫
(74)代理人　100113169
弁理士　今岡　憲
(72)発明者　松本　正春
大阪府茨木市宇野辺１丁目６番９号　株式会社吉野工業所大阪工場内

審査官　氏原　康宏

最終頁に続く

(54)【発明の名称】化粧用コンパクト容器

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
固定壁面Ａに嵌合凹部２を形成するとともに、嵌合凹部２内に固定した柔軟で弾力性に富む材質で形成された枠部材３により鏡４を固定してなり、枠部材３は、嵌合凹部２内に固定させた皿状をなすとともに、中央凹部５に鏡４を密嵌固定し、且つ、嵌合凹部２に隣接する固定壁面Ａ上に指掛け片６を一体に延設してなることを特徴とする化粧用コンパクト容器。
【請求項２】
上記枠部材３が、嵌合凹部２内にインサート成形方法により固定されてなる枠部材である請求項１記載の化粧用コンパクト容器。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は化粧用コンパクト容器に関する。
【０００２】
【従来の技術】
化粧用コンパクト容器として、例えば、上面に化粧品を収納する化粧品収納凹部を備えた皿状の容器本体と、該本体後部に後部を回動可能に連結して本体上面を開閉可能に設けた蓋体とを、各前部で係脱可能に構成してなるもの、或いは上面をパフ収納部に形成した中皿を、容器本体と蓋体との間に開閉可能に設けたもの等、種々の形態のものが知られてい

る。
【０００３】
これらの化粧用コンパクト容器は鏡を設けているのが一般的で、その固定面として、蓋体裏面がごく普通に挙げられる。また、中皿を有するものにあっては、蓋体裏面の外、中皿の下面を鏡の固定面としている場合もある。また、これら容器に於ける鏡の固定は、一般に両面テープを使用して行う場合が多く、また、鏡周囲の固定面に枠体を融着固定する等の方法が採用される場合もある。
【０００４】
【発明が解決しようとする課題】
近年の廃棄物処理事情によれば、合成樹脂と金属或いは硝子等との分別処理が要望されており、従来のコンパクト容器では、鏡を分離することに考慮が払われておらず、裏面をピッタリ固定した鏡をひきはがすのは極めて困難で、仮に外すことが可能であっても時間，手間が掛かっている。特に、従来容器に於ける鏡はその固定面に鏡と略同形状の凹部を形成して、その中に嵌合固定させている場合が多いため、余計取り外しが困難となる。また、周囲を融着したものにあっては、枠体は容器体同様の肉厚のものであり、その当接面をベタに融着しているので更に分離が困難となる。
【０００５】
本発明は上記した点に鑑みなされたもので、使用済みの容器から鏡を容易に分離することができるとともに、使用時には鏡が外れる等の不都合を生じる虞がなく、確実に固定させておくことができ、また、その構造も簡単な優れた化粧用コンパクト容器を提案するものである。
【０００６】
【課題を解決するための手段】
本請求項１発明の容器は上記課題を解決するため、固定壁面Ａに嵌合凹部２を形成するとともに、嵌合凹部２内に固定した柔軟で弾力性に富む材質で形成された枠部材３により鏡４を固定してなり、枠部材３は、嵌合凹部２内に固定させた皿状をなすとともに、中央凹部５に鏡４を密嵌固定し、且つ、嵌合凹部２に隣接する固定壁面Ａ上に指掛け片６を一体に延設してなることを特徴とする化粧用コンパクト容器として構成した。
【０００７】
また、請求項２発明の容器は、上記枠部材３が、嵌合凹部２内にインサート成形方法により固定されてなる枠部材である請求項１記載の化粧用コンパクト容器として構成した。
【０００８】
【発明の実施の形態】
以下、本発明の実施例の形態を図面を参照して説明する。
【０００９】
本発明の化粧用コンパクト容器１は、図示例の如く、固定壁面Ａに嵌合凹部２を形成するとともに、嵌合凹部２内に固定した枠部材３により鏡４を固定している。
【００１０】
固定壁面Ａは、鏡４を固定させるための壁面であり、化粧用コンパクト容器の形態によりその具体的な位置は種々採用できる。一般的には容器本体の後部に後部を回動可能に連結して容器本体上面を開閉可能に設けた蓋体の裏面を固定壁面とするが、容器本体上面を開閉可能に中皿を設けるとともに、中皿上面を開閉可能に蓋体を設けた形態の容器の場合には、中皿裏面を固定壁面としても良く、従来の化粧用コンパクト容器の鏡を固定する壁面であればどの様な部分であっても採用できる。
【００１１】
嵌合凹部２は、枠部材３を介して鏡４を収納固定するための凹部であり、その平面形状は枠部材３の形状に合わせて種々選択できる。
【００１２】
枠部材３は、柔軟で弾力性に富む材質で形成されたもので、例えば、天然ゴム，合成ゴム，熱可塑性エラストマー等のエラストマーを使用して形成されたものであり、嵌合凹部２

内に固定させた皿状をなすとともに、中央の凹部５に鏡４を密嵌固定しており、また、嵌合凹部２に隣接する固定壁面Ａ上に指掛け片６を一体に延設している。

【００１３】

図１の実施例では、この枠部材３をインサート成形方法により嵌合凹部２内に固定している。例えば、嵌合凹部２を有する部材（図１の実施例の場合には蓋体）を形成する際に、その金型中の所定位置に、予め形成された枠部材３を設置し、金型内に樹脂を導入して固化して蓋体を形成し、嵌合凹部２内に枠部材３が嵌合固定された状態で蓋体が形成される。

【００１４】

枠部材３をインサート成形方法により固定することにより、周囲を密に接触して嵌合させることができて、しっかりと嵌合凹部２内に枠部材３を固定することができる。

【００１５】

また、指掛け片６は、枠部材３を鏡４ごと嵌合凹部２より取り外す際に使用するもので、その平面形状は実施例の如き矩形状に限らず、種々の形状を採用出来る。この指掛け片６は固定壁面上に延設しているため、通常の容器の使用操作では枠部材３を引き外す方向への外力が掛かり難く、また、枠部材３を取り外す際にはその柔軟性から、持ち上げて引っ張ることができるため、充分に引き外し方向への力を及ぼすことができる様に構成している。

【００１６】

鏡４は、従来のこの種コンパクト容器に使用されているものが使用でき、その形状も、図示例の如き平面矩形状のものに限らず、例えば、平面円形状、平面楕円形状、平面三角形状等種々の形状を採用できる。

【００１７】

鏡４を枠部材３の凹部５内に嵌合させる際には、その凹部５を鏡の大きさより若干小さく形成しても、枠部材は柔軟なため比較的容易に広がり、確実に嵌合させることができ、しかも、嵌合された鏡により周囲を嵌合凹部２周面に圧接し、より強固に固定することができる。

【００１８】

図１に示す実施例に於いて容器１は、上面に化粧品収納凹部７及びパフ収納凹部８を凹設した皿状の容器本体９と、該本体の後部に後部を回動可能に連結して容器本体９上面を開閉可能に設けた蓋体10とを備え、蓋体10の裏面を矩形状に凹ませた嵌合凹部２を形成し、該凹部内に枠部材３を介して鏡４を固定する例を示している。また、図示例では、容器本体９の前面中央より後方へ押し込んで形成した凹部11内奥壁に突設した係合突起12に、蓋体10裏面前部より垂設したフック13を係合させて、閉蓋状態を維持させる如く構成するとともに、凹部11内に揺動可能に設けた押し釦14の押圧により係合突起12とフック13との係合を解除可能に構成した公知の係合手段を設けている。

【００１９】

この様な容器１は、使用後図４に示す如く、指掛け片６を掴んで鏡４ごと枠部材３を外し、次いで、図５に示す如く、鏡４を枠部材３から外し、それぞれ分離して廃棄することができる。

【００２０】

図６は、枠部材３の嵌合凹部２内への固定が、嵌合凹部２内に突周設した係止突条15に、枠部材３外周に突周設した係合突条16を乗り越え係合させて枠部材３を固定した例を示す。この場合、図示例の如く、蓋体10の頂板部分を、基部17と板部18との二部材で形成し、枠部材３を嵌合後に板部18を嵌合固定させることにより、より容易な枠部材３の嵌合と、充分な係止突条15の突設幅を得られるものである。

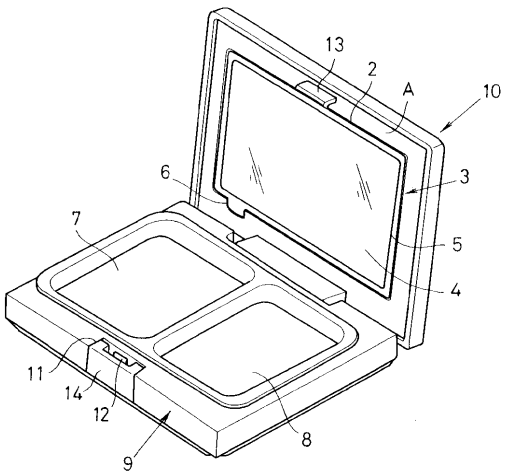
【００２１】

この場合にも、図１の実施例と同様に、指掛け片６を掴んで引き出せば、その枠部材３の柔軟性故、容易に嵌合凹部２から取り外すことができる。

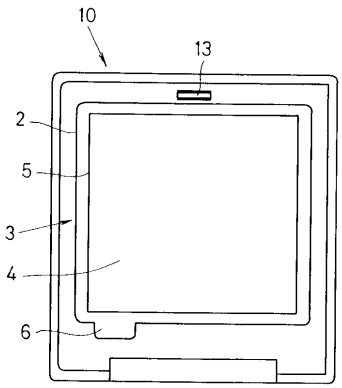
【００２２】

【発明の効果】
以上説明した如く本発明化粧用コンパクト容器は、固定壁面に形成した嵌合凹部内に、柔軟で弾力性に富む材質で形成された皿状の枠部材を固定させ、その中央凹部に鏡を密嵌固定させたので、使用時には確実に鏡を固定させておくことが出来、また、嵌合凹部に隣接する固定壁面上に指掛け板を一体に延設しているため、容器使用後の廃棄の際には、指掛け板を掴んで引き出すという簡単な操作で容易に枠部材を取り外すことが出来、次いで、枠部材を鏡から容易に取り外せるものであり、鏡と他の合成樹脂材との分離廃棄を簡単に行えるものである。
【００２３】
また、嵌合凹部内にインサート成形方法により枠部材を固定させたものにあっては、枠部材を嵌合凹部に、ガタ付き等の虞がなく密に嵌合固定させておくことができる利点を兼ね備えている。
【図面の簡単な説明】
【図１】本発明の一実施例を示す斜視図である。
【図２】同実施例の鏡固定部分の裏面図である。
【図３】同実施例の鏡固定部分の縦断面図である。
【図４】同実施例の鏡及び枠部材を嵌合凹部から外す際の説明図である。
【図５】同実施例の鏡を枠部材から外す際の説明図である。
【図６】本発明の他の実施例を示し、鏡固定部分の要部縦断面図である。
【符号の説明】
２…嵌合凹部，３…枠部材，４…鏡，５…凹部，６…指掛け片，
Ａ…固定壁面

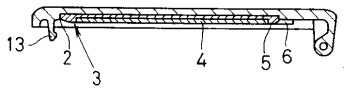
【図１】



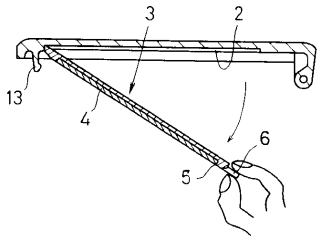
【図２】



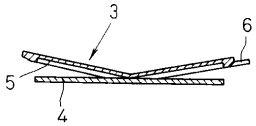
【図３】



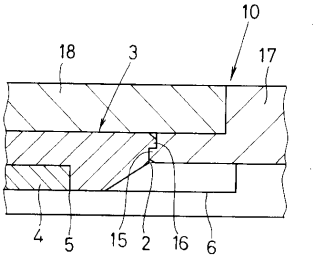
【図４】



【図５】



【図６】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭６２－０６９９１８（ＪＰ，Ｕ）
特開平１０－００５０３７（ＪＰ，Ａ）
実開昭６１－１７７５０８（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A45D 33/00、42/00